

・発行日 52・10・31  
 ・発行 岡崎市AVL  
 ・編集 廣報委員会

県内・県外より一、一〇〇人が参加  
 県視聴覚研究大会、盛会に終る

去る十月十二日、連尺小・城北中を会場に愛知県学校視聴覚教育研究大会が開催されました。県内はひろく、県外からも西は福山市、東は鎌倉市に至る範囲からの参加を得、総計一、一〇〇人を上まわる参加者がありました。

公開授業・分科会・全体会と、どれをとつても全国大会にひけ劣らぬ内容で、終始、参加者をうならせていました。これまでにご尽力いただいた関係各位に心から御礼申しあげます。さて本号は、小学校の分科会のようにすを集約して、報告致します。

### ◎小学校社会科

低学年部会では、継続視聴をさせることによつて、疑問を多く持つようになり、比べて見たり、

考えたりするようになったと実践報告があり、助言者よりテレビをどう見させるかは教師自身が手を加え、指導がなされなくては教育とはいえないのではないかとの指導があつた。

中学年では、生・丸ごと継続、三時間セットで計画、視聴させ、学習の動機づけ、視聴能力の育成をねらつた事例が報告された。視聴によつて学び方を学ぶ面と資料性の二面をだいにすることが必要であるとの助言を得た。

高学年部会では、歴史番組は、平行型でなく融合型へ、登場人物を中心として、その時代の背景の追求に重きをおく、五年は二時間セットで計画との報告があつた。助言者からは、主題をとらえることが大切である点と二時間セットにあまりこだわらなければならないとの指導を得た。

### ◎小学校理科

一年生のカタツムリ、二年生の水車づくりの事例が発表された。視聴カードは絵から文へと移行させたことも提案された。助言者からは、テレビが実験観察のかわりになつてはいけない。自分の考えで利用する必要があるとの指導があつた。

中学年部会では、計画、動機づけ、視聴カード、まとめの授業展開法と、視聴カードの書き

方などが中心となつた。助言者からは、学習のパートナーと、教師の主体性について指導があつた。

高学年は、①学習と番組との関連、②一単元における位置づけ、③発展学習などを中心に理科学習への教師の心がまえが話しあわれた。学習を深めるためには、自作教材を含め、あらゆる資料をどん欲に活用するとよいとの助言があつた。

### ◎小学校 道德

低学年部会では、家庭における親と子、学校における子どもの話し合いによる食い違いの解決法について教師の立場、母親の立場から話し合われた。また、道德における評価は、議論の的となつているが一つの方法として、チェックカード方式が示された。

中学年では、テレビの使い方、特に視聴後の指導をどのようにしたらよいか活発に話しあわれた。この問題に対して助言者より、現代の子どもには感動がない。その点からも、放送教材は大変よい教材である。また、なぞりをさけて教師の第一発問を特に大事にしなくてはいけないとの指導があつた。

高学年は、親子同時視聴の実践と授業における二つの展開方法について話しあいがあり、助言者

からは、何はともあれ、テレビは有効な武器であるので継続視聴させることだとの指導があつた。

(Y・K・S・E)

N E K 会長賞 竜海中学校が獲得

全国大会(山形市)で晴れの表彰

全国から数多く応募された放送教育論文の中から共同研究の部で、竜海中学校はみごとに中学校部会では最高の「N E K 会長賞」を受賞した。

表彰式は去る十月二十一日、山形市で開かれた放送教育全国大会の総合全体会(山形市民会館大ホール)の席上で行なわれ、N E K 会長から滝口校長先生の手に重みのある賞状が渡された。

この論文は、研究委嘱校として二年間研究してきた成果を「放送による学習のあり方を求めて」と題して野村教務主任が中心になつてまとめたものである。岡崎市にとつて久しぶりの快挙であり心からお祝い申しあげたい。

○県の自作 O H P I T P 作品募集締切迫る

応募締切 十一月二十四日(木)

提出先 岡崎市視聴覚ライブラリー  
この機会にふるつて応募を!!